

# まえがき

本報告書は、緑化生態研究室が平成 18 年度に行った調査・研究の概要ならびに、当研究室のスタッフが平成 18 年度に学会や雑誌などで発表した論文を収録したものです。

平成 18 年度に実施した調査・研究課題は、大きく以下の 4 テーマに分類されます。

- ① 地球温暖化対策への対応に関する研究
- ② 自然共生・生物多様性の確保に関する研究
- ③ 都市公園・道路空間等の緑の確保に関する研究
- ④ 緑豊かで良好な景観形成の支援に関する研究

「① 地球温暖化対策への対応に関する研究」では、中分解能衛星データによる緑地の変遷解析手法に関する研究、都市緑化樹木の CO<sub>2</sub> ストック変化量把握に関する研究、道路のり面を活用した早期樹林化工法の開発を実施しました。

「② 自然共生・生物多様性の確保に関する研究」では、外来種による生態系への影響とその回避手法に関する研究、公園緑地における生態的環境評価手法に関する研究、動植物・生態系への事業影響予測と情報可視化手法の開発、動植物・生態系、自然との触れ合い分野の環境保全措置と事後調査手法に関する調査、外来種対策に対応した法面緑化工法の確立に関する調査、植生変化を考慮した効果的な植生管理手法に関する調査、特定外来生物の代替植生に関する調査、湧水池における希少生物の保全に関する調査を実施しました。

「③ 都市公園・道路空間等の緑の確保に関する研究」では、道路緑地の設計手法に関する研究、樹木の根上り対策に関する調査、台風による倒木被害対策に関する調査を実施しました。

「④ 緑豊かで良好な景観形成の支援に関する研究」では、景観デザインの規範事例集策定調査、景観重要樹木の管理指針の策定に関する研究、歴史的イメージ形成に関する景観評価手法の開発、隣接施設・街路等と連携した都市公園の整備・管理に関する研究を実施しました。

自然環境と人間生活の調和や共存が叫ばれているなか、道路、河川、公園、都市など公共事業のあらゆる場面で自然環境への配慮が求められています。また、京都議定書において、日本は二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量を基準年から 6%削減することが定められており、都市緑化は二酸化炭素の吸収・固定源対策の一つとして期待されています。

このような時代の中、公共の緑地が持っている快適性、美しさ、自然との触れ合いに加えて、二酸化炭素の吸収・固定などの効果を正しく評価し、その効果をより発揮しやすくする技術を開発することが強く求められてきております。そこで、私たちは研究成果に対する皆様からの評価やご意見を踏まえつつ、上に示したような研究を通して、より良い政策提言の発信に向けて努力していきたいと考えています。

末尾ながらこれまでの関係の皆様のご指導、ご協力に感謝するとともに、緑化生態研究室に対する変わらぬご支援をお願いする次第です。

平成 19 年 12 月

国土交通省国土技術政策総合研究所  
環境研究部 緑化生態研究室長  
松江 正彦